



## 国の「難聴児の早期発見・早期療育推進のための基本方針」が年度内公表予定です

これまで、国では、都道府県が難聴児支援の計画作成をする際の指針となる「基本方針」の検討を行ってきましたが、いよいよ年度内に公表の予定となりました。経過と今後について、お知らせします。

### ◆検討の経過

令和元年6月に厚生労働省と文部科学省のプロジェクトチームが取りまとめた「難聴児の早期支援に向けた保健・医療・福祉・教育の連携プロジェクト報告」では、都道府県における「難聴児の早期発見・早期支援プラン(仮)」作成の指針策定をすることとなっています。指針策定のため、令和3年3月に有識者による検討会を立ち上げ、難聴児支援関係者・当事者からのヒアリング及び議論が昨年7月までに4回開催され、「難聴児の早期発見・早期支援のための基本方針(案)」が取りまとめられました。

「基本方針(案)」では、基本的な取組として、「**新生児聴覚検査に係る協議会の設置と推進体制の整備**」、「**都道府県における難聴児支援担当部局の明確化と中核的機能を有する体制の整備のための協議の場の設定**」、「**聴覚特別支援学校(聾学校)等の教員の専門性向上に向けた取組とセンター的機能の強化**」等が挙げられています。

「基本方針(案)」は、1月までパブリックコメントの募集がなされ、その意見集約後、1月28日に第5回の検討会が開催されました。そこではパブリックコメントにおける指摘も含め、多くの課題も挙げられました。その中には、支援をする人の「人材育成」に係る意見も多くあり、「**教員の専門性を育てるのには5年は掛かるので異動の工夫を行えるように県教委に配慮してほしい**」、「**聾学校教員の専門性を向上させるための研修制度が必要ではないか**」等の意見が寄せられています。人材育成と専門性の確保は全国の多くの地域で共通かつ喫緊の課題であると感じています。(検討会の資料は厚生労働省のホームページからご覧いただけます。

([www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_17475.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17475.html))

### ◆今後想定される動き

今後、年度内に国から都道府県へ「基本方針」が通知され、新潟県でも計画の作成について検討がなされると考えられます。現「基本方針(案)」では、地域の実情に応じた取組を盛り込むよう求められています。

新潟県では、令和元年度より「新潟県新生児聴覚検査体制整備推進協議会」が開催され、今年度は、3月に開催の予定です。県として難聴児の早期発見・早期支援にどのように取り組んでいくのか、今後継続して協議され、成果になることを期待したいと思います。

## 「新生児聴覚検査に係る研修会」

令和3年11月15日(月)に県健康づくり支援課主催で、県地域振興局及び市町村の母子保健担当者を対象とした「新生児聴覚検査に係る研修会」が平成29年1月以来、約4年半ぶりにオンラインで開催されました。行政主催の研修会であり、大変ありがたく思います。当法人理事長の前田からも話をさせていただきましたので、概要をお知らせします。

(文責:きこえエール新潟編集部)

①県健康づくり支援課小林課長補佐から「新潟県における新生児聴覚検査体制の整備について」、関係機関の役割や検査の実施状況の報告\*と、厚生労働省「新生児聴覚検査から療育までを遅延なく円滑に実施するための手引書」を踏まえた今後の県の方向性についての説明がありました。

\*新生児聴覚検査は97.6%の受検率(13,974人受検) リファーマのお子さんでは0.44%(61人)(県内、令和2年)

②新潟大学大学院医歯学総合研究科・頭頸部外科学分野講師の泉修司医師から「難聴児の健やかな成長を願って～支援するために知っておくべきこと～」の講演があり、聴覚障害についての基礎的な説明、1-3-6ルール(生後1か月までに検査、3か月までに精密検査、6か月までに補聴器装用で療育開始)の重要性、新生児聴覚検査を受けた場合6か月で支援開始できる可能性が20倍であることなど、難聴者のきこえや早期発見・早期支援について大変分かりやすいお話がありました。

③きこえエール新潟前田からは「難聴児の早期支援」について、現在早期支援を担っている聾学校の課題や関係機関が連携して支援することの大切さ、県・市町村保健師さんの役割や支援にあたってのお願いについてお話ししました。

県、市町村の保健師さん等66名(参加者名簿より)が参加されました。その後、当日参加できなかった人のためにオンデマンド配信も実施されました。

リファーマと言われたり難聴と分かったりしたお子さんのご家族に一番近くで寄り添う市町村保健師さんから、難聴児の早期発見・早期支援の必要性をより理解してもらえた有意義な研修会だったと思います。

## 「赤ちゃんのきこえの検査(新生児聴覚検査)についてのご案内」(リーフレット)が改訂



令和3年10月に、県健康づくり支援課で新しく作成されたリーフレットが、県のホームページよりご覧いただけます。

当法人も、リファーマと言われたご家族の不安や疑問に寄り添う支援を行う団体として初めて紹介いただきました!!

[新潟県ホームページ](http://www.niigata.lg.jp)より「新潟県新生児聴覚検査」で検索

# 合唱 コンクール



## ～難聴児とそのクラスメイトにとって～

昨年10月の勉強会を、オンデマンドでご覧になった、難聴のお子さんをお持ちのお母さんから次のような感想が寄せられました。

中学生のときに、合唱コンクールに向けてみんなで練習をして、発表をして『歌うことって楽しいと思った！』というお話は非常に興味深かったです。想像だけで考えると本人が音程をとるのは難しいですし、自身の音程で歌うと合唱の質を落としてしまいそうです。そこに周りのクラスメイトがどう関わってくれるかによって、いい体験になるか、トラウマになるか、もしくは声を小さくして当たり障りのない形で合唱コンクールという行事を終えてしまうかのいずれかだと考えています。～中略～ 合唱コンクールを楽しかった、有意義だったと思えるためには、周囲にどんな働き掛けをすればいいのか？ 何に気を付ければいいのか？ クラスメイトはどう接してくれたのか？ など、お聞きしたいです。

今号では、まずは講師の加賀先生からいただいたお答え、そして難聴特別支援学級（以下、難聴学級）の担任として中学生を支援した経験をお持ちの先生から、どんな工夫や配慮をしているかなどのノウハウや経験談をお聞きしましたので、それをお伝えします。

### 加賀 充先生より

合唱コンクールの練習では、手元の歌詞を読みながら歌うと音程をとれなかったり、歌うタイミングが分からなかったりするので、とても難しかったです。そこで、先生（友達だったかもしれませんが）が模造紙に歌詞を書いて黒板に貼ってくれました。クラスみんなはそれを見ながら歌い、歌うタイミングは指揮者が指し棒で示してくれたので、とても歌いやすかったです。



合唱コンクールはクラスが一致団結しないと綺麗に歌えません。音程や歌うタイミングが分からないときは、クラスの友達に聞いてみるといろいろ教えてくれました。練習すればするほど、歌うって楽しいと思えるようになりました。今、思えば、耳が聞こえない私にとって、貴重な経験ができたんだなぁと感じられる本当に楽しい活動でした。

### 難聴学級担任を経験された先生より

中学校の難聴学級担任として、難聴の生徒たちと経験した合唱コンクールについてお伝えします。難聴学級には学年も聴力や音楽の好みなども全く違う生徒たちが在籍していました。生徒たちはそれぞれが、主に同学年の交流学級で学習し、週に数時間ほど、個別やグループで難聴学級に来て学んでいました。合唱コンクールと聞いて、初めから「楽しみ！」と喜ぶ生徒から、「絶対嫌だ！ムリムリ休む！」と叫ぶ生徒まで様々です。



難聴学級では、上手に歌えるかではなく、学級の一人として何をするかとか、楽しく参加するにはどうしたら良いか等の視点で話し合い、イメージ作りをしていきます。そしてそれぞれの生徒の交流学級の担任や音楽教師に、その生徒の願いを伝えます。その後は、交流学級の生徒たちに、本人との関わり方の支援について提案します。『イメージをもって歌えるようになるためにCDを聞いて歌詞の意味を一緒に考える』『リズムをとりながら歌う練習をする』『指揮者の口を見て読話し、歌詞を合わせる』等、一人一人に合わせて、取り組む内容や支援の方法を交流学級の担任と一緒に調整します。

聴力が厳しくても、合唱コンクールが大好きなAさんは裏方でも活躍。歌詞をポスターにして表彰され、学級でも認められて、「楽しかった！」と充実した表情。Bさんは、音程は難しくてもリズムはばっちり。指揮者の口元を読話し、級友の声を楽しみ、良い表情で歌っていました。中等度難聴のCさんは小学校時代からピアノが好きで習っていたので、音楽の先生に相談し、合唱コンクールでのピアノ伴奏を勧めてもらいました。級友に認められ、自信をもって合唱コンクールでデビュー。その後、全校朝会でもピアノ伴奏を任されていました。

コンクール当日の生徒の表情や口の動きから、楽しんでる、頑張っている姿を会場で見るとほっとしたものです。合唱コンクールを通して、係の生徒がうまく行かなくて悩んでいる姿を見たり、級友同士で励まし合ったりする過程から、たくさんの学びを得ることができます。幼児期の親子での手遊び歌、小学校時代の音楽の楽しみ方とは違う、思春期の合唱との出会いがあります。

難聴学級の先生は、実に細やかに生徒に寄り添い、合唱コンクールという行事に向き合う支援をしてくださるのですね。貴重なお話をお寄せいただき、ありがとうございました。

## 第2回 相談支援員研修会を開催します

日時：令和4年3月26日（土）  
13:30～15:00（受付13:15～）  
開催方法：Zoomによるリモート開催

相談支援員の皆様は、ご参加をよろしくお願いたします。詳細は後ほどご連絡します。

## 特定非営利活動法人きこえエール新潟

《相談申込ダイヤル》080-3211-3700

（午前9時～午後7時30分）

《相談申込アドレス》kikoe\_soudan@yahoo.co.jp

ホームページ：「きこえエール」で検索

<https://www.normanet.ne.jp/~k-yell/index.html>

【事務局】950-3373 新潟市北区須戸3-3-14

kikoe\_yell@yahoo.co.jp

会員数正会員42名賛助会員個人36名団体2企業3